

お知らせ

第13回バイオセーフティシンポジウムの開催について 日本バイオセーフティ学会

バイオセーフティシンポジウムテーマ 《バイオセーフティ教育に関する国際状況》

開催主旨

皆様、日頃は日本バイオセーフティ学会(JBSA)の活動にご理解ご支援頂き感謝申し上げます。

実験室バイオセーフティ並びにバイオセキュリティにおいては、基盤となるバイオリスクマネジメントを実践する人材が主要プレイヤーとなります。具体的には、取扱い病原体と取扱い手順におけるリスクを抽出し、ソフト管理のみならずハード（器具・機器、設備、施設など）と融合した総合的なリスク対応策を提案、実施できる人材が必要です。

本シンポジウムでは、海外及び我が国におけるバイオセーフティ教育並びにバイオセーフティ専門家としての要件や実情について幅広く情報提供いたします。

まずは、海外におけるバイオセーフティ教育と認証制度について、海外のバイオセーフティ関連学会における教育カリキュラムや専門家としての認証制度などを解説いたします（篠原講師）。次にその一例として、米国バイオセーフティ学会における専門家養成講習について紹介いたします（黒崎講師）。さらに、我が国の大学などにおける海外留学生に対するバイオセーフティ教育の実例などを解説いたします（田中講師）。最後に、海外におけるバイオセーフティの実践状況について、施設状況や病原体研究の事例などを紹介いたします（井上講師）。

講演終了後に各講師と参加者における質疑応答と総合討論を行い、今後の我が国におけるバイオセーフティ教育や専門家の要件などについて、一方的な情報提供だけではなく、現状の問題点や要望などについて忌憚のない意見交換ができればと考えております。

バイオセーフティ・バイオセキュリティに関するソフト及びハードに関わられる多くの方々の参加をお願いいたします。

なお、本シンポジウム参加は JBSA 実験室バイオセーフティ講習認定者の獲得ポイント（10ポイント）となります。

開 催 内 容

1. 開催日時：2024年12月13日（金）13：30～17：00
2. 開催場所：（一社）予防衛生協会（つくば）
3. 開催方式：対面及びWebリモート方式（Zoomシステム）
質疑応答及び総合討論は対面およびチャットとマイク通話を予定しています。

4. プログラム

- 13:30～13:40 開会挨拶 篠原克明 JBSA 国際委員会 委員長
- 13:40～14:20 海外におけるバイオセーフティ教育と認証制度の紹介 篠原克明 信州大学
- 14:20～15:00 米国バイオセーフティ学会（ABSA）の概説と学会年次総会プレカンファレンス
における専門養成講習について 黒崎陽平 長崎大学
- 休 憩（15:00～15:10）
- 15:10～15:50 大学における海外留学生などへの安全教育 田中俊憲 沖縄科学技術大学院
- 15:50～16:30 海外におけるバイオセーフティの実践に関して 井上智 国立感染症研究所
- 16:30～17:00 総合討論

5. 参加申込

参加申込書は学会ウェブ「お知らせ・第13回バイオセーフティシンポジウム」からダウンロードしてください。申込期限：2024年12月9日（月）

申込先

一般社団法人予防衛生協会内 日本バイオセーフティ学会事務局
バイオセーフティ教育に関する国際状況事務局
担当：小野孝浩 柴田宏昭
TEL 029-828-6888 FAX 029-828-6891
E-mail：jbsa-symp@primate.or.jp

6. 参加費

会員（JBSA 実験室バイオセーフティ専門家講習認定者含む）：5,000 円
非会員（JBSA 実験室バイオセーフティ専門家講習認定者）：7,000 円
非会員：10,000 円（参考：会員年会費 10,000 円）

請求書、領収書ご入り用の方は、バイオセーフティ教育に関する国際状況事務局までご連絡ください。

振込先

ゆうちょ銀行 〇一九店 当座 151869
口座名義：日本バイオセーフティ学会（ニホンバイオセーフティガクカイ）
振込手数料はご負担願います。また、参加者名が分かるようにお振り込み願います。

講演概要

1) 海外におけるバイオセーフティ教育と認証制度の紹介

篠原克明

信州大学 繊維学部 特任教授

バイオセーフティ専門家については、WHO 第4版などにその要件、責務や役割などが示されている。その育成や認定については、国内外で種々の教育講習や認定制度が作成されている。認定に関しては、講習会への参加や職務履歴のみを考慮して認定を与える場合もあれば、さらに試験を実施して合格者のみにより資格を与える場合がある。資格分野もバイオセーフティマネジメント全体としての総合的な資格や機器・設備・廃棄物など分野ごとに各々資格を与える場合もある。

本講座では、IFBA (International Federation of Biosafety Associations : 国際バイオセーフティ学会連合)、ABSA (ABSA INTERNATIONAL : The Association for Biosafety and Biosecurity、American Biological Safety Association) などで開催されている講習会や認定制度について紹介する。

2) 米国バイオセーフティ学会 (ABSA) の概説と学会年次総会プレカンファレンスにおける専門養成講習について

黒崎陽平

長崎大学高度感染症研究センター バイオリスク管理部門

JBSA 認定 実験室バイオセーフティ専門家

本講演では、米国バイオセーフティ学会 American Biological Safety Association (ABSA) 概要と現在の活動状況を解説する。また、2023年10月に米国ネブラスカ州オマハ市で開催された第66回 ABSA 年会プレカンファレンスにて実施された専門養成講習「Using the past to prevent future laboratory-acquired infections (将来起こる実験室感染防止のための過去の事故事例の活用)」を受講したのでその内容について報告する。

3) 大学における海外留学生などへの安全教育

田中俊憲

沖縄科学技術大学院

沖縄科学技術大学院大学において、海外留学生等に対して実施している安全教育のコースやその概要、どのようなことに注意して安全教育を実施しているのかを紹介する。同安全教育にあたっては、英語教材を準備することはもちろんであるが、日本語や日本文化がハイコンテキストであることを念頭に内容や説明をすること等が重要であることを説明する。

4) 海外におけるバイオセーフティの実践に関して

井上智

国立感染症研究所

世界保健機構（WHO）から2020年に発刊された「Laboratory Biosafety Manual, 4th edition (LBM4)」にはリスクと証拠に基づいて実験設備・安全装置・日常的な実験活動が適切かつ規範に見合った持続的なものであることを確認する新しいアプローチが記載されている。第3版からの改版では世界保健規則（IHR）に準拠したリスク評価の枠組に言及してバイオセーフティに関する持続的な発展を導くことがねらいであるとも述べられている。国内外の専門家と行った感染症に関わる調査研究、国際会議や関連する学術会議等に参加することで知り得た知見、これらの経験をバイオセーフティの視点から俯瞰して、その状況を共有する。バイオリスクマネジメント人材の育成に必要とされるさまざまな取扱い病原体と取扱い手順におけるリスク抽出、ソフト管理、ハード（器具・機器、設備、施設など）と融合した総合的な対応策などの考察に役立てば幸いである。